

新風会・公明
松山信裕
議員



○ ジオパークについて
○ 観光について

その他の質問

- ・日本遺産について
- ・自主財源確保と資金調達について

議 ① 新年度に日本ジオパークの再認定審査が予定されている。そのスケジュールと課題は。

② 教育や保全活動計画、シタイプロモーション、観光分野でのマーケティング戦略などさらなるポトムアップを目指すジオパークとして、日本ジオパーク全国大会を誘致すべき。

理 ① 再認定審査は、例年、9月に現況報告書や自己評価表等を日本ジオパーク委員会に提出し、10月から11月に2日間の現地調査を受け、12月の日本ジオパーク委員会調査運営部会、全体会を経て、審査結果が発表される予定。

4年前の再認定審査時に指摘された今後の課題・解決すべき点の解決に向けた4年間の取り組み状況が、次の再認定における審査評価の対象となる。

② 全国大会の開催地は、全国を6つのブロックに分けて輪番で開催することとなっており、昨年の大会は同じ甲信越中部ブロックの白山手取川ジオパークで開催されたため、勝山市への誘致は最短期間となる。

① 市の観光を取り巻く環境は、劇的な変化、進化をしている。将来を見据えた観光のブランドデザインと戦略を示す、今後10年の勝山市の観光ビジョンを策定すべき。

② 勝山市観光まちづくり株式会社において、以前の観光協会的な役割をどのように考えているのか。

理 ① 第6次勝山市総合計画の政策目標の1つとして「多くの観光客が訪れる豊かで活力あるまち」を掲げている。この目標を達成するため、社会情勢の変化を視野に入れた当市の観光振興ビジョンを早急に策定する。

② 勝山市観光まちづくり株式会社が市内の観光事業者との結び付きが弱く、観光事業者の意向を事業に充分反映できていないとの指摘をいただいている。

2月10日には、設立以来初めてとなる取締役社長の交代や社内に市内の観光事業者等による勝山観光戦略協議会が設立されたので、当該協議会には、かつて観光協会が担っていた役割を期待している。

議 勝山市は、昨年4月に18課から12課に再編する機構改革を行った。

今年度に入り、勝山市では、恐竜クロカンマラソン、年の市、左義長祭りなど大きな行事が復活してきている。その中で、行事が重なったことがあるとも聞いている。

市役所では、三役会議や課長会議が開かれているが、その席上で調整はできないか。再編による弊害により、市民や子供に影響を与えてはならないと思う。

今年度の機構改革による行事に対して弊害はなかったか。

理 機構改革に伴う弊害として、事業間の調整不足から、市が主催する複数の行事の開催日が重なり、一部の参加者がやむを得ず片方の行事の参加を見送ることになったとの指摘をいただいた。

行事日程の調整が難しいケースもあるが、三役会議や課長会議で情報を共有し、他課の日程確認も行うことで、行事日程の重複を極力回避するよう努めていく。

議 将来予想される南海トラフ巨大地震や都市直下型地震に備え、ドローンを活用する取り組みが進んでいる。

勝山市では、昨年8月に豪雨による災害が発生した。災害直後の現状確認は、ドローンを使用することにより迅速に行えると思う。

災害時や豪雪時の物資輸送にも即戦力となると思う。

勝山市におけるドローンの導入について伺う。

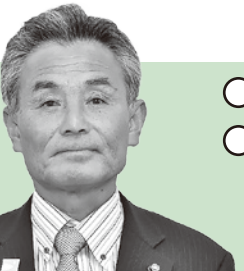
理 昨年8月4日の大雨では、被害確認等のため市所有のドローンを飛ばし、河川上流の被害状況を撮影した。

ドローンの有効性は認識しており、職員の民間操縦訓練への参加や関連企業との協定締結、実践的な活用研究に取り組んでいる。

地震や大雨、大雪時の上空からの避難指示等の伝達や遠隔地の被害状況などの情報収集、物資の輸送等にドローンの活用ができると考える。

将来への運用を見据え、新たに法律で規定された有人地区を目視外ドローンを運用するための国家資格の取得を検討をしている。

新風会・公明
吉田清隆
議員



○ 機構改革に伴う影響について
○ 大災害に備えたドローン活用について

その他の質問

- ・通学路の除雪について

議 勝山市は、昨年4月に18課から12課に再編する機構改革を行った。

今年度に入り、勝山市では、恐竜クロカンマラソン、年の市、左義長祭りなど大きな行事が復活してきている。その中で、行事が重なったことがあるとも聞いている。

市役所では、三役会議や課長会議が開かれているが、その席上で調整はできないか。再編による弊害により、市民や子供に影響を与えてはならないと思う。

今年度の機構改革による行事に対して弊害はなかったか。

理 機構改革に伴う弊害として、事業間の調整不足から、市が主催する複数の行事の開催日が重なり、一部の参加者がやむを得ず片方の行事の参加を見送ることになったとの指摘をいただいた。

行事日程の調整が難しいケースもあるが、三役会議や課長会議で情報を共有し、他課の日程確認も行うことで、行事日程の重複を極力回避するよう努めていく。

勝山市では、昨年8月に豪雨による災害が発生した。災害直後の現状確認は、ドローンを使用することにより迅速に行えると思う。

災害時や豪雪時の物資輸送にも即戦力となると思う。

勝山市におけるドローンの導入について伺う。

理 昨年8月4日の大雨では、被害確認等のため市所有のドローンを飛ばし、河川上流の被害状況を撮影した。

ドローンの有効性は認識しており、職員の民間操縦訓練への参加や関連企業との協定締結、実践的な活用研究に取り組んでいる。

地震や大雨、大雪時の上空からの避難指示等の伝達や遠隔地の被害状況などの情報収集、物資の輸送等にドローンの活用ができると考える。

将来への運用を見据え、新たに法律で規定された有人地区を目視外ドローンを運用するための国家資格の取得を検討をしている。